

令和2年7月

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原簿記情報医療専門学校
学校関係者評価委員会

令和2年4月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下10項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

この1年間の活動について適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も妥当なものと考えられる。

昨年度末からの新型コロナウイルスの拡大による通学不能時期においても、いち早く「オンライン授業」に切り替え、カリキュラム通りに学習を進められたことは、タブレット端末の利用促進を進めてきた従来からの教育活動の成果として大いに評価できる。学校再開から約1か月が経過したということであるが、在宅中の学習成果に差が出ていることも懸念されるので、学生一人一人にしっかり向き合って貴校の教育カリキュラムの浸透を図って欲しい。今回のコロナ問題を機に「在宅」や「オンライン」という言葉が大きく取り上げられたように、今後は社会のあらゆるシステムが見直されることになると考えられる。そのような新しい時代において、貴校は更なる差別化のための付加価値をどこに見出すか、引き続き学園の衆知を集めて検討していただきたいところである。

2. 学校運営

学校運営について適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も妥当である。

昨年度に「学園諸規則」の大幅改訂を実施し、コンプライアンス体制の強化を図ったとのことであるが、昨今、業界を代表するような大企業がデータの偽装問題など、不祥事を起こすという事件が後を絶たないように、規則が整っていても指揮権限や内部統制の仕組みが明確でないというルールが上手く機能しないことがある。貴校の組織形態について部門ごとの自由度が高いという長所がある反面、権限と指示命令系統がやや不明確になる部分もあるのではないかという懸念の報告があった。

最近では、情報漏洩を防止するために一切印刷しない会社もあるので、貴校もペーパーレス化に向けた準備をしておきたい。

学生自らが行動記録を入力するという新しい就職管理システムは上手く稼働すれば職員側の労力軽減に結び付くと思われる。学生が習熟するまではトラブルも多いと思われるが根気強く取り組んで欲しい。

3. 教育活動

教育活動に関しては学習スケジュールや到達目標の管理など、従来から適切な取り組みが行われており評価できる。今年度から国の高等教育の修学支援新制度の認定校となったということであるのでより厳密な学生管理が要求されると思われるがしっかりと対応して欲しい。

3月2日からの全国的な休校要請を受け、在宅での授業継続のため大変苦しい対応を迫られたとのことであるが、大原グループの資源を活用したオンデマンド授業配信や Teams によるオンライン授業等をいち早く準備し取り組んだことは大変評価できる。これは全国的なオンライン教育網を持つ大原グループの力と、これまで数年かけて取り組んでいた iPad による IT 活用教育の成果が結実したものであろう。しかしながら、世の中の「オンライン」化への急激な変化は必ず新しい問題を生ずる要因となると思われるので、予想される次の危機に備え、課題の洗い出し、職員のスキル向上、設備の更新などを着実に進めていただきたい。

職員のキャリア研修については、勤続年数に応じた職務能力のガイドラインを設定し、必要な業務知識の取得を計画的に実行する取り組みが順調に継続されているとの報告であった。このような長期キャリア研修は地道に継続することが大切なので今後も確実に進捗していただきたい。

4. 学修成果

昨年度の学習成果について特に問題は無く、評価できるのであるが、報告によると今年度は新型コロナウイルス感染問題の影響で多くの国家試験、検定試験が中止又は実施延期となり、専門学校で学ぶ学生としては大きな目標を失う結果となったということである。これは学校としては何とも対応できない外的要因であるが、学校生活にとって重要な様々なイベントも中止となり、厳しい環境に置かれている学生に何とか寄り添って心のケアに努めていただきたい。

6月まで登校ができないという異常な状況で始まった年度であるため、今後発生する可能性のある退学者への懸念は強いと思うが、退学に至る理由は学生個人の資質も含め、学習問題、対人関係、経済的事情と多種多様であり、取り組みの成果が発揮できないこともあると思うが、担任制を活かしたきめ細かい学生管理、手帳を利用したセルフマネジメント、保護者との積極的な連携を続け、可能な限りの改善への努力を継続していただきたい。

卒業生の社会的な活躍及び評価については、求人開拓を兼ねた就職先へのアプローチや、卒業生講演の機会を増やし、貴校卒業生のキャリア形成の追跡などを行うのは如何であろうか。

5. 学生支援

全ての項目につき適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も妥当なものである。

経済的に困窮している学生にとって、「高等教育の修学支援新制度」の認定校となったことは大きな援助となり大変評価できる。毎年の更新申請と学生の個別管理に労力がかかるということであるが、次年度の単位制への移行準備も含め、学生の福祉のためしっかり取り組んで欲しい。

今年度も精神的な悩みを持つ学生への対応に多くの労力がかかっているとの報告であったが、これは

今の時代の教育機関として避けて通れない問題であるので職員一丸となって取り組んでいただきたい。

校舎の入り口には遠隔式の体温計や消毒剤が、ロビーには透明パーテーションやサーキュレータが多数設置されており、学生への新型コロナウイルスの感染防止対策に真剣に取り組んでいることが伺えた。まだまだ予断を許さない時期であるのでこの取り組みはしっかり継続していただきたい。

6. 教育環境

教育環境の整備について適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も妥当である。

施設や設備については改修計画通り作業が進んでいるとのことで大変評価できる。去年は全館のLED照明化が終了したということで教室も明るくなり、Wi-Fi 環境も整った大変良い学習環境が構築されていると思われる。しかし、本年は新学期から在宅学習という思わぬ事態となり、学生個人の通信環境に格差があることが教育の格差となることが問題となったとのことである。これは大変難しい課題ではあるが、今後の学校教育の環境整備という点で重要なポイントとなると考えていただきたい。

報告にもある通り、貴校の震災へ取り組みは年度ごとに着実に進捗しているようであるが、今回の新型コロナウイルスのように、想定外の災害は何時でも起こりうるということである。災害対策の要はできるだけ多くの状況を想定して事前に準備しておくことだと考えられる。この点を常に意識した学校運営を今後もお願いしたい。

7. 学生の受入れ募集

学生の受入れ募集については適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も非常に高水準の評価である。

昨年の提言を受け、学習意欲の高い留学生の受入れを開始したということは評価できる。残念ながら入学基準を満たす留学生の応募が無く、本年度の入学実績は無かったとのことであるが、次年度以降の取り組みとして是非募集を継続していただきたい。

コロナ感染症対策として ZOOM や LINE の公式アカウントを活用し「オンライン説明会」を開催し一定の成果が得られたという点は大変評価できる。この経験を活かし遠隔地の学生などにはオンラインによる積極的な説明と LINE による手軽なコミュニケーションの提供を図ってはいかがでしょうか。

8. 財務

会計監査・情報公開も適正に行われており現在の財務状況に問題は無い。また、財務情報も適正に情報公開されており、財務項目に関しては大きな問題はない。

「学生の受入れ募集」の報告にもあった学習意欲の高い留学生の積極的受入れについては、将来の財務安定の担保と学園環境の活性化に繋がる部分であるので節度をもって計画を進捗していただきたい。

9. 法令等の遵守

前年度は学園の「個人情報取扱規則」について外部委託管理のセキュリティ強化規定の追加など、多くの見直しを行ったとのことであるが、今年度以降も職員に対する啓蒙を継続し、コンプライアンス体制の更なる底上げを図って欲しい。

10. 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献について適切な取り組みがなされており、自己点検・自己評価の結果も妥当なものと考えられる。

現在は新型コロナウイルス感染症の問題で、公的組織以外への施設貸し出しを制限しているとのことであるがこれはやむを得ない判断であろう。貴校は名古屋駅前の好立地ということもあり、多くのニーズが得られる可能性があるため、事態終息後は地域貢献に寄与する方策を推進して欲しい。

ボランティア活動に対しやや消極的であるとの意見があるとのことであるが、このような社会貢献活動に参加することは学生に様々な気付きを与え、学業や実社会に対する理解を深める効果が高いため様々な方策を工夫し、参加できる機会を徐々にでも増やしてもらいたい。

以上

学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	間野 友長	MACミッドランド税理士法人 常務理事
委員	市川 紘二	学校法人安達学園中京高等学校 元事務長
委員	山本 和夫	株式会社ユニモール 常勤監査役
委員	岡田 伸夫	旭情報サービス株式会社 中部支社 次長
委員	宇佐見栄二	株式会社ウサミハウス 代表取締役（平成5年度卒業生）
委員	速水 亮晴	医療法人大真会 大隈病院勤務（平成23年度卒業生）